＝主婦のための時事解説＝

警職法という怪物
真の狙いを見極めよう

警職法とは？

私たちが子供のころの母親は、よく「そんなにいつまでも泣きやまないとお巡りさんがきますよ！」といって子供をなだめたものですが、そういうこわい警察官を復活させようとする〝警職法〟がいま大問題になっています。それでなくても警官隊の記者暴行事件や取締りの行過ぎで世論の非難をあびている警察官の権限を大巾にひろげようというのですから大変です。

ではどういうところを改正するのかといいますと、まずいまの法律では逮捕状が捜査令状がなければ勝手に他人の持物を検査したり没収することはできないことになっているのを、改正案では警察官が「犯罪を犯しそうだ」と判断しさえすればそれができるようにしています。また、警官にはどこへでも立入れる権限が与えられますから「娘さんが町を歩いていたら〝チョツトコイ〟とよばれて、包みをあけられるとか、警官が家庭の中まで入つてくることになるだろう」（市川房枝さん談）というわけです。

さらに「保護」「避難命令」「警告と制止」というような条項も設けられ、これもまた「警察官が「犯罪が行われそうだ」と認められ

避難」も「警官、制止」もこれと同じで警官が「犯罪が行われそうだ」という理由さえつければ、それだけで労働組合や文化サークルの集会やデモを解散させることができるのです。

疑問に答える

さて、いくらそういう悪い法律でも「警官がそうムチャなことをするはずがないじゃないか」「だいいち、自分さえ悪いことをしていなければ、ちつとも恐れる必要はない」という御意見もあるでしょう。また暴力団、少年犯罪の予防や酔つぱらいの取締りができるというのだから結構じゃないかーという御意見もあると思います。しかしこの点については評論家の田中寿美子さんは「少年犯罪が警察の取締りで防げると思つたら間違いで、社会のあり方につながる問題です。主婦などがこのような表面の口実に迷わされず、その底にひそむ問題を考えることが必要です」と言つています。

暴力団の問題もその温床である社会悪（失業やギャング映画やセックスの問題など）をそのままにしておいて、いくら取締つても根絶やしにすることはできませんねまた「政府は労働運動の弾圧が目的ではないと言つているではないか」「いくらなんでもジグザグデモで通行人や電車をとめるのは行過ぎではないか」という御批判もありますが、これについては政府が警職法を出してきた背景というか、その目的をよく考えてみなければいけないと思います。

警職法の背景

それは岸首相とアメリカのNBC放送記者との対談で非常にハツキリしたようです。その中で岸さんは「中国は侵略者だ」と言い「いまこそ憲法第九条（戦争放棄をうたつているところ）破棄のときだ」とアメリカも顔まけの大胆なことをいいました。これが政府の大方針なのです。そこから日米安保条約の改定で、政府は日米対等の立場の条約に改めるのだといつていますが、なんのことはない自衛隊の海外派兵の義務をしよつかぶるだけのことなのです。

又防ちよう法、国防省の新設など消防庁や自治庁を一本にして内政省（昔の内務省）を復活させる法案が準備されているのです。一方経済の面では独占禁止法を大巾にゆるめて核武装、ミサイル生産をやり、軍需ブームで不況をのり切ろうというわけです。しかもこうした政治をすすめようとすれば政府にとつて目の上のタンコブは労働組合です。労働組合はいつもこうした戦争政策に激しく反対してきましたから、まず労組をたたきつぶさなければならない――それが警職法なのです。またこうした政策をすすめるためには、そういう政府の考えにそつた次代の国民をいまから育てておかなければならない――それが勤務評定なのです。ですから私たちは警職法のホントのねらいがどこにあるのかその背景をハツキリ見きわめて一人ひとりがこの悪法に反対しなければなりません。

「警職法」改悪に思う
忌わしい傷あと

作家　中本たか子

こんど、とつぜんにもちだされた警職法は、国民の心を慮がいさせている。わたしなどは、いまもなお消えていない苦痛のかたまりが、心と肉体にのこつている。

それは昭和四年の秋であつた。そのころ「女人芸術社」というのがあつて、講演会をおこなつたとき、帯刀貞代さんが、女工さんたちの苦しい労働や生活をはなして聴衆はひじように感動した。その中から、一人の中年の紳士がたつて、帯刀さんのために、資金カンパを求めた。すると、そのころは会場に臨検している警官があつてこれが帯刀さんまで含めた三人を検挙し、丸の内署へ一晩留置した。

そのころ、私は、亀戸のモスリン工場の近くに住んでいた。この近所にあつた組合同盟（中間組合）の事務所で、労働者が素人芝居をした。労資協調的なものだつたらしいが、資本家に労働者が要求する場面にさしかかると、臨検の警官はそれを中止させ、亀戸署へ検挙していつた。そしてふだん、つねに組合の事務所を私服がおとずれていた。

この年の暮ごろから、私は金協（左翼の組合）の組織の手伝いをはじめた。すると、家をおとずれたり、近所をまわつたりして、私服が嗅覚をはたらかせていたが、ついに翌年の一月末に検挙した。私を検挙するまでに、女工さんたちを一人二人よびだしたり、時々は警察へ留置したりして、すつかり根元を洗いあげていた。このとき、私は顔がゆがむほどなぐられた。そのために青いあざができて三十一日間留置されたが、出るまでにそれは充分に消えなかつた。

この年――昭和五年の三月末にそのころ非合法におかれた共産党の首脳部が、この年の選挙闘争でかいめつに瀕した党を再建するために、私に住宅と資金を提供するようにたのんだ。私は党員ではないが、その依頼をひきうけた。すると七月に検挙され。このとき十数人の私服がピストルをもつて、土足のままで家にとび上り、病気で臥していた私を後手にしばりあげて、トラックにのせて警察へつれていつた。

一週間後にしらべだしたが、何一つこたえないといつて、三人がかりで私をなぐる、ける、竹刀で頭からたたきつける。そのために私の頬げたはゆがみ、髪毛は音をたててぬけ、背骨は折れそうになり、意識がくらんでいつた。

だが、これはまだ、事のはじめであつた。その次には、私をまつ裸にし、捕縄で私を後手にゆわえあげ、その結え目におもい机をしばりつけようとした。それがうまくゆかないので、足までしばり、逆さにつるそうとした。あいにくそこに十三貫位の私の体重にたえる釘がなかつたので、竹の棒をもつて来て、女としての惨虐なはづかしめをしかけた。私がもがきにもがくため、それもうまくゆかずこんどは私の上に馬のりになつて両手で首をしめて、窒息させた。

私が息をふきかえすと、こんどは私の身体を起して、手足をしばつたままずわらせ、ふろしきに包んだ鉄棒で、股の肉の上を力まかせに小突きはじめた。みるみるうちに股はあかくなり、紫色になりついにどすぐろくなつてはれ上つた。痛さになき叫ぶ私をしり目にして、三人が代る代る小突きつづけた。

翌日、また私を調室につれだすと、きのう打つた股の肉がどすぐろくはれ上つた上を、また鉄棒で小突きつづけた。これは真夏の土用のころで、ついに私は衰弱して留置場にねこんだ。湯も水ものど一を通らず、担架にのせられて、附近の病院へかつぎこまれた。

映画

日本最初の総天然色長篇漫画
白蛇伝（はくじゃでん）

【かいせつ】中国古来の伝説「白蛇伝」に基く、我国最初の総天然色長篇漫画映画。原作の骨子の上に、全く自由に空想の翼をのばし美しい音楽と豊かな色彩をちりばめた、我国映画史上に一期を画する超豪華巨篇である。

【ものがたり】宋の時代の中国、西湖の畔に住む少年許仙は可愛がつていた白い小蛇を大人たちに叱られて泣く泣く捨てます。それから何年かの後……すつかり成人した許仙は、ある朝、自分の吹く笛の音につれて鳴る不思議な胡弓の音を聞きました。

彼の可愛がつているパンダ（白黒熊）、ミミ（猫熊）は怪しい少女にさそわれて古寺に胡弓を発見し持ち帰ります。その夜、許仙の笛につれて胡弓は又ひとりでに鳴り出すのでした。翌朝、彼らは道で昨日の少女少青にあい、彼女に導かれて立派な御殿に入り、胡弓の持主の美しい白娘に引きあわせられ、許仙は一目で恋に落ちてしまうのでした。白娘は、昔許仙が可愛がつた白蛇の精、少青は青魚の精だつたのです。高僧、法海は、許仙を妖怪の手からなんとかして救おうとします。一方、二人の仲の結ばれたのを嘗んでパンダとミミが木彫りの竜で遊んでいるうちに、竜は少青もろとも空高く舞い上つてしまいました。竜は宝物殿に落ち、ひときわ大きな二個の宝石を、国宝とも知らず少青は二人のために持ち帰ります。このため許仙は捕えられ、白娘少青は妖術で姿を消してしまいました。許仙は遠く蘇州に追放され、労役に服していました。祭ににぎわう蘇州の町に主人をたずねて現れたパンダとミミは、大豚を頭とするいたち、あひる、小豚、ねずみなどを家来にし、なおも許仙を探し求めます。一方、白娘、少青も蘇州の町はずれの古塔に許仙の来るのを待つていました。白娘の妖気は、夜な夜な許仙のからだのまわりに白い蛇の幻となつて現れ許仙は苦力仲間からも追放されます。去つてゆく許仙を呼びとめて忠告しに法海は、許仙の心が最早白娘にとらえられてしまつているのを知り法術をもつて闘うことを決意します。古塔に白娘とめぐりあつた許仙は法海の術で仲をさかれこゝに法海、白娘の術合戦の火ぶたが切られるのでした。

【15日より大宇宙シネマセンターで上映】

なかまの本棚（9）

忘れられがちな「谷間の教師」

ちかごろは僻地教育という言葉をあまり耳にしなくなりました。日本の教育界は勤評問題一色にぬりつぶされた感じですが、しかし僻地は決してなくなつていません。僻地というのは、地理的にときされた場合をいうのか、社会の進歩からおきざりにされたことをいうのか知りませんが、この書は神奈川県の山奥の原始林にかこまれた小さな貧乏村の、くらい丹沢分校の教師の生活記録です。

良い先生は都会の学校に配置され「どんじり先生」が僻地へやられるのが普通だそうです。

だから、最初は著者も村人達からどんじり先生とかげ口を云われたのです。しかし、彼の強い意志と努力で社会と文化にとりのこされた、この谷間の学校の二十五人の子供たちと、貧乏と迷信と病気にむしばまれた村人たちの生活をたて直すために、村人のあきらめきつた生活態度を希望にみちたものに変えていくことに全力をあげているのです。

明るい明日をつくるために今日の下積の仕事は必要です。僅か七十人の山村であつても、堅実にしんぼう強く力をつくし、立直しに努め、自分一人の努力でなしに、これを皆んなが一緒に協力するように変えていつたことに、心から尊敬の念をいだきました。

これは、序文にもあるように「美談」ではなく、新しい社会をつくるものの心構えとして、広く組合員の方々に読んでいただきたいと思います。（え）

水野茂一著　平凡社　一七〇円

荒海に溢るる若者の闘魂
大漁唄い込み（民謡）
宮城県

日本三景の一つ「松島」をはじめ石巻、塩釜一帯でうたわれる民謡です。一名「曽太郎節」ともよばれ、古くから漁民に大漁を祝う唄として愛唱されているのです。黒潮、親潮など交流する絶好の漁場――牡鹿半島の突端金華山あたりをはじめ、宮城県一帯の漁場で「選島甚句」とともに元気よく、ロこぎの声にあわせハヤシ文句も非常ににぎやかで、漁師の生活の断片をたくみにうたいあげています。この唄にかよつた北の「ソーラン節」は建網（タテアミ）に入つたニシンをタモ網で舟の中にとり入れるとき、漁夫たちが声をあわせて威勢よくうたうものですが、実をいえば早春の漁期に、東北地方から北海道へ出稼ぎに雇われた漁夫〝ヤン衆〟たちの口にのつて全国にひろまつたのです。

勇ましく素朴なうたごえは、ハツピ姿にネジリハチマキ、赤銅色の筋骨隆々とした若者らの闘魂あふるる気ハクがリズムのなかによくにじんでいるようです。

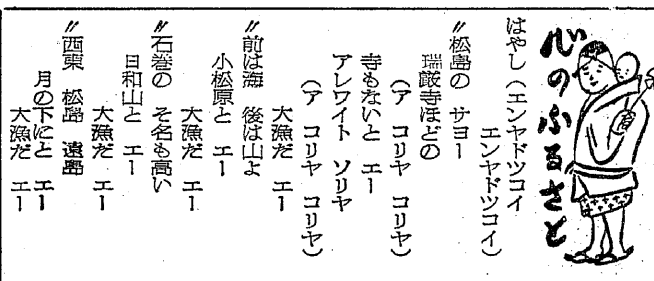
ゆつたりとした調子の千葉県片貝地方の「大漁節」（数え唄形式）にくらべると、ダイナミツクで、男性的な感動を十二分に私たちにあたえてくれるのです。

さいぎんでは「ソーラン節」とともに全国にもおなじみになつたようです。

一六八九年、松尾芭蕉が筆をとつた俳カイ紀行文「奥の細道」に松島周辺を〝扶桑第一の好風にして風洞庭西湖に恥じず、東南より海を入れて江の中三里セツ江の湖をたたう……〟とその風光明媚を賞讃していますが、歌詞にも名所旧蹟がたくさんうたいこまれています。

そのなかでも「瑞厳寺」は松島の名勝とともに海内にまで宣伝された名刹で、天長五年（八二九年）円仁慈覚大師が勅定によつて比叡山宝檀現の神興を奉じ、天台宗の一寺を建立したのが創りだといわれ、帰化僧の住持という時世もあり、次第に頽廃するにおよんで伊達政宗が再興を志し、紀州高野山より良材を運んで、四カ年の歳月を費いやし、慶長十四年（一六〇九年）竣工したといわれます。

今見られる寺観もその当時のままのものです。祖先よりうけつがれてきた「大漁唄い込み」をはじめ漁村を中心にうたわれる磯節・江差追分・大漁節・ソーラン節・遠島甚句・串本節など――それぞれ特味も異つた民謡ですが、海に育ち働くものの「生活のうた」として、いつまでもうたいつづけられたいものだと思います。

是非機会をみて「漁村のうたごえ」でも実現してもらいたいものです。

（やました）